

1. 人口、世帯数、年齢別人口等の動向(1)

*「町丁別の人口(住民基本台帳)による」各年9月末現在
 *「町丁別の年齢別人口(住民基本台帳)による」各年9月末現在

表1 人口、世帯数、年齢別人口の動向

	平成22年	平成27年	令和2年	平成22～ 27年	平成27～令 和2年	平成27 年比率 (%)	令和2年 比率 (%)	令和2年 区平均比 率(%)	令和2年 市平均比 率(%)
人口 (人)	69,634	71,461	75,184	1,827	3,723	100.0	100.0	100.0	100.0
0～14歳人口 (人)	8,798	8,926	9,425	128	499	12.5	12.5	12.6	12.0
(内0～5歳) (人)	3,768	3,899	4,038	131	139	5.5	5.4	5.3	4.5
15～64歳人口 (人)	49,331	49,112	51,157	▲ 219	2,045	68.7	68.0	67.6	63.4
(内20～24歳) (人)	4,585	4,427	4,724	▲ 158	297	6.2	6.3	5.8	5.4
(内25～39歳) (人)	19,146	17,159	17,120	▲ 1,987	▲ 39	24.0	22.8	21.6	17.4
65歳以上人口 (人)	11,505	13,423	14,602	1,918	1,179	18.8	19.4	19.9	24.6
(内65～74) (人)	6,189	6,940	6,964	751	24	9.7	9.3	9.7	11.8
(内75歳以上) (人)	5,316	6,483	7,638	1,167	1,155	9.1	10.2	10.1	12.8
世帯数 (世帯)	34,196	35,322	37,774	1,126	2,452				
平均世帯規模 (人/世帯)	2.04	2.02	1.99					2.23	2.06

*「町丁別の年齢別人口(住民基本台帳)による」各年9月末現在

図2 人口、世帯数

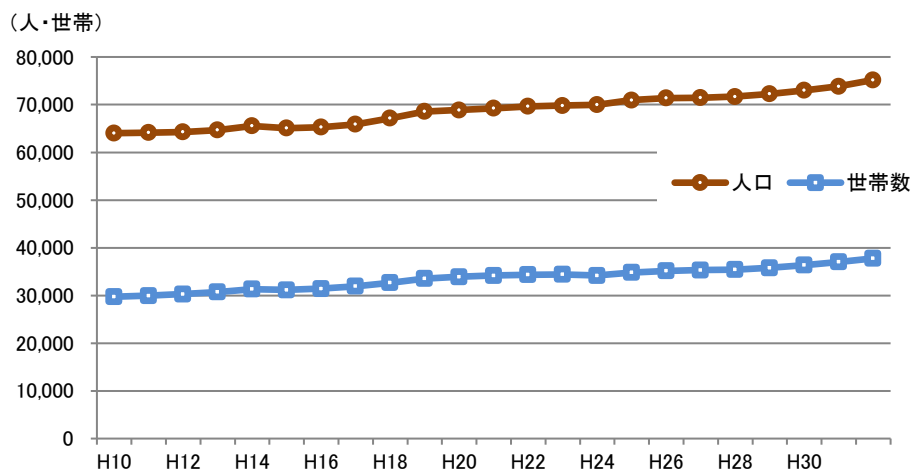
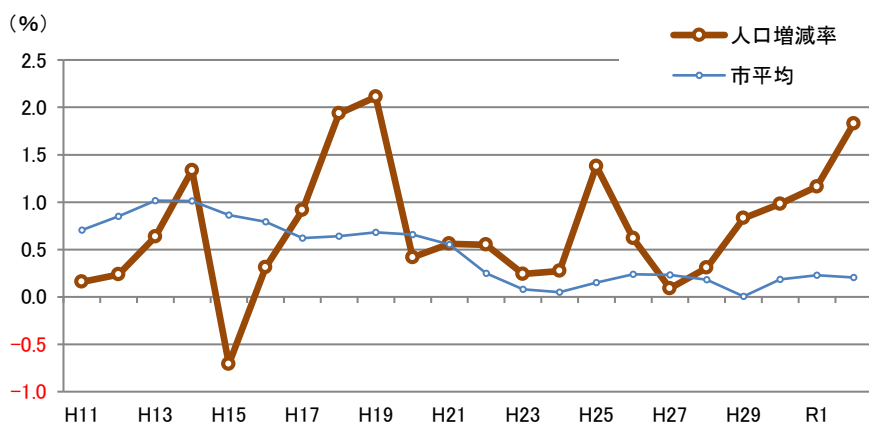


図3 対前年人口増加率



2. 人口、世帯数、年齢別人口等の動向（2）

*「町丁別の人口(住民基本台帳)による」各年9月末現在
 *「町丁別の年齢別人口(住民基本台帳)による」各年9月末現在

図4 平均世帯規模

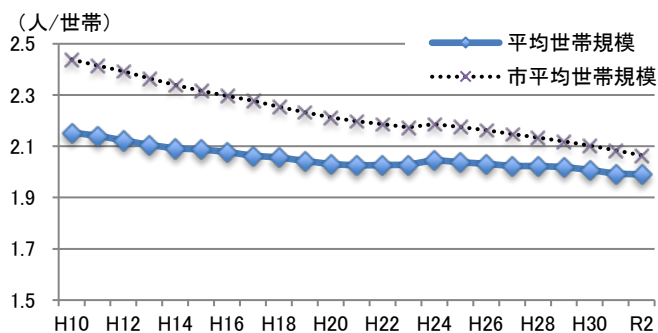


図7 年齢5歳別人口の増減

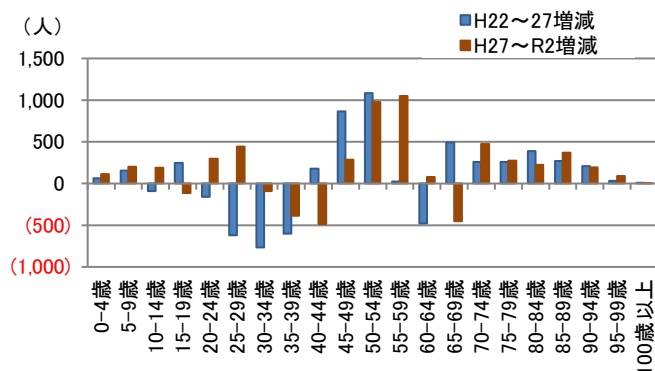


図5 年齢別人口

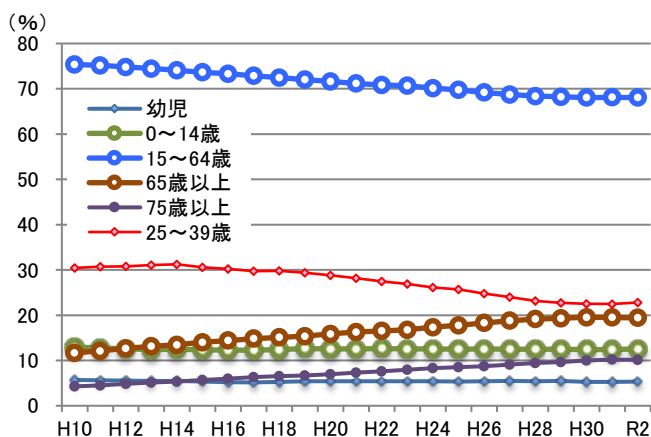


図8 年齢5歳別人口の推移率

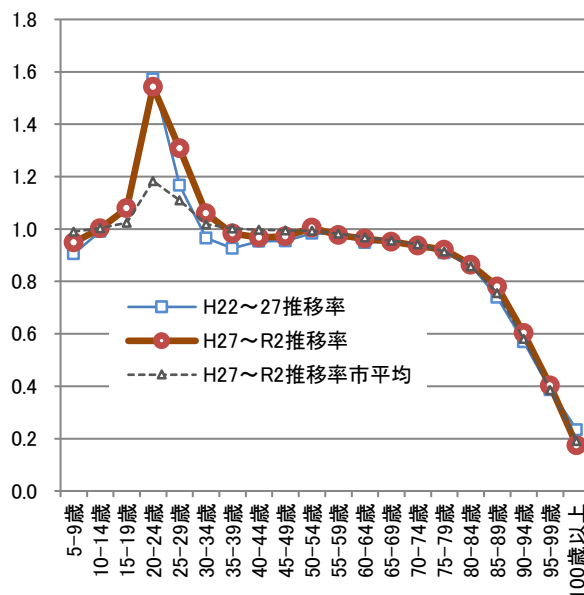
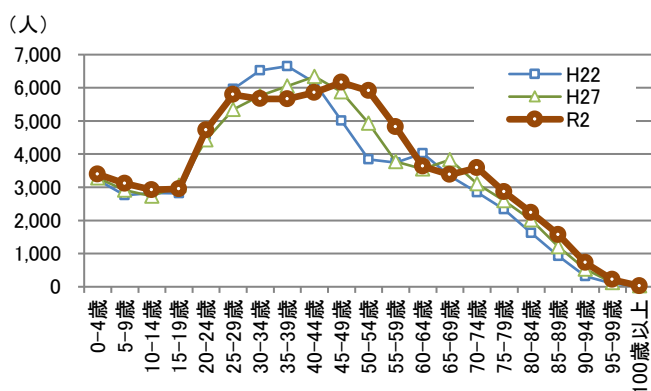


図6 年齢5歳別人口



*「町丁別年齢別男女別人口」による。9月末現在
 *推移率: 上記の場合は、年齢5歳階級人口の各階級の人口が、死亡、転出入によって5年後に1階級高齢の人口になる割合。

3. 世帯の様子 (1)

*国勢調査結果による

図9 核家族・単身世帯

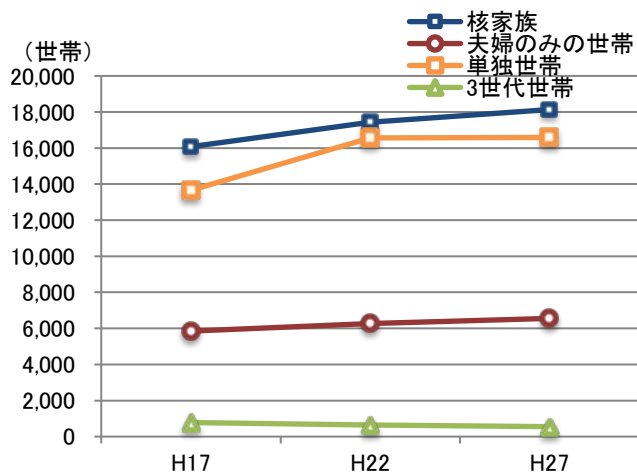


図10 核家族・単身世帯 (比率)

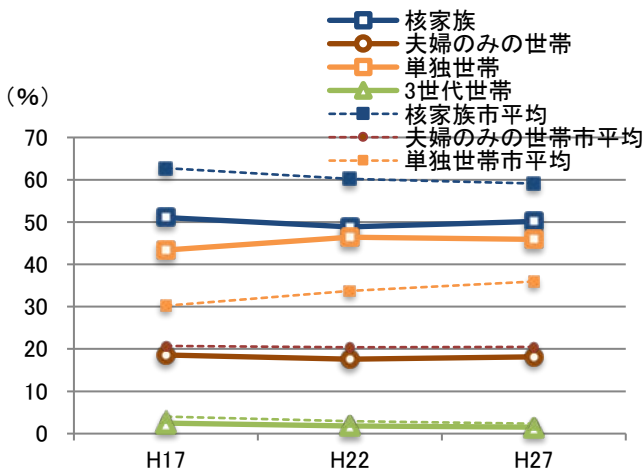


図11 高齢者のいる世帯、6歳未満のいる世帯

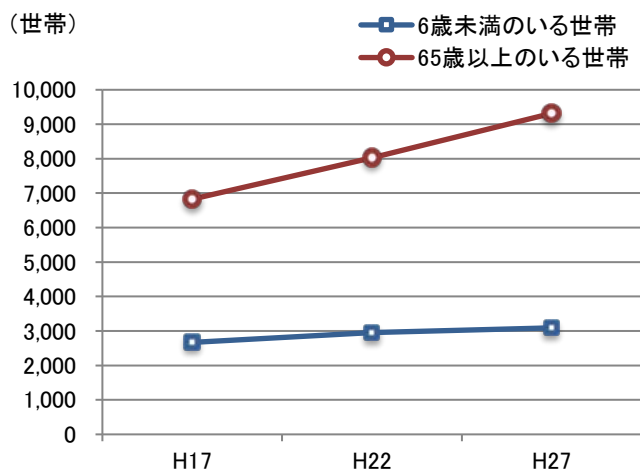


図12 高齢者のいる世帯、6歳未満のいる世帯 (比率)

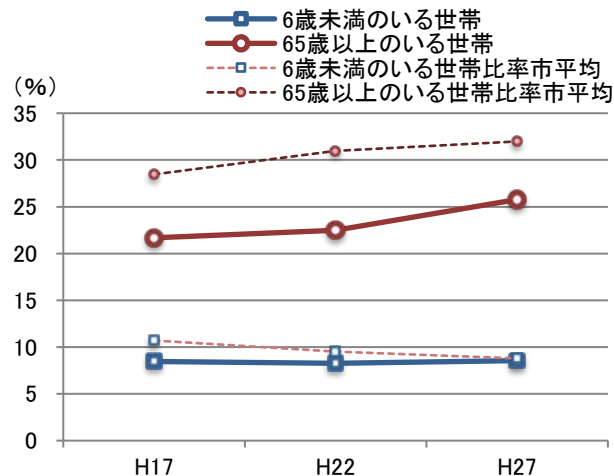


図13 6歳未満の子どもの暮らし方

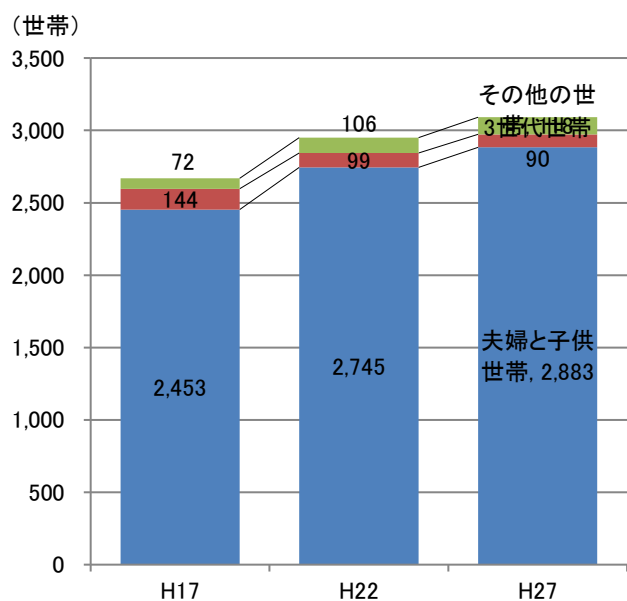
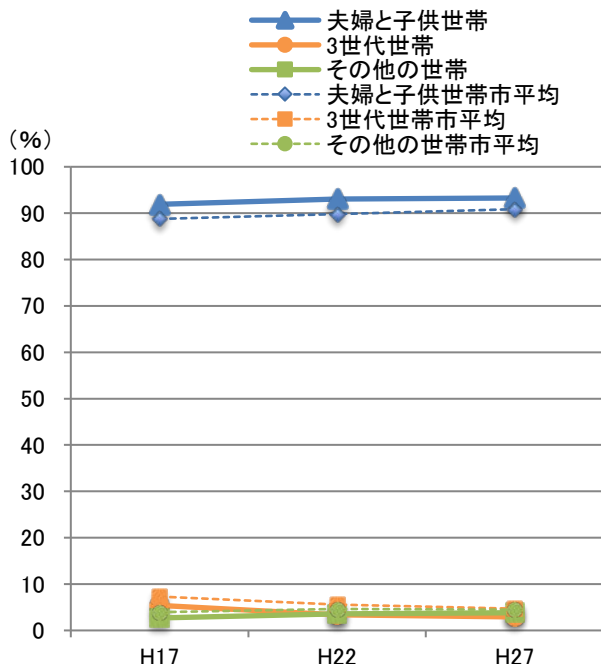


図14 6歳未満の子どもの暮らし方 (比率)



4. 世帯の様子 (2)

* 国勢調査結果による

図 15 高齢者の暮らし方

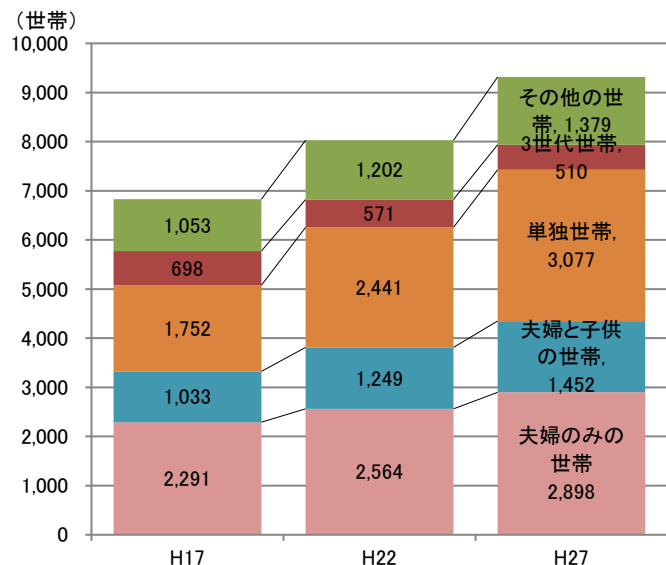


図 16 高齢者の暮らし方 (比率)

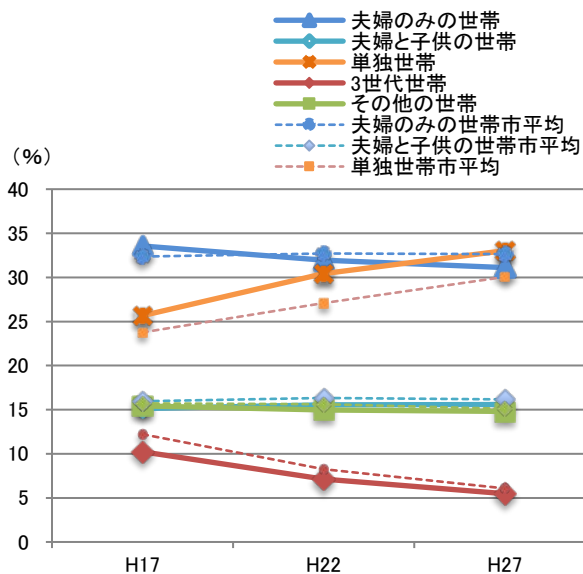


図 17 住宅の所有関係別世帯

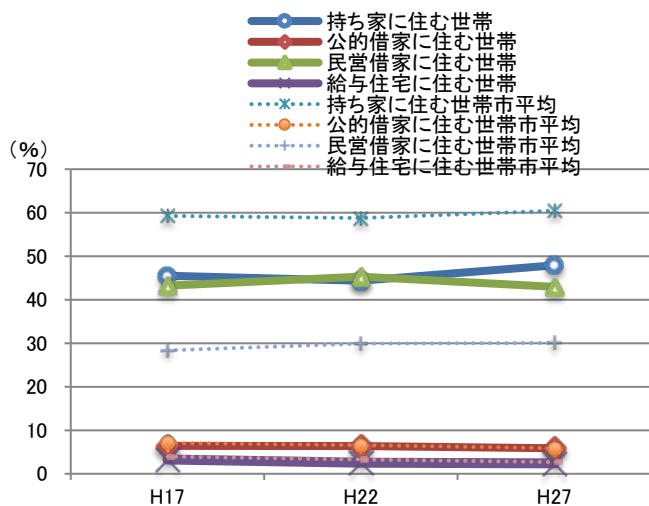


図 18 住宅の建て方別世帯

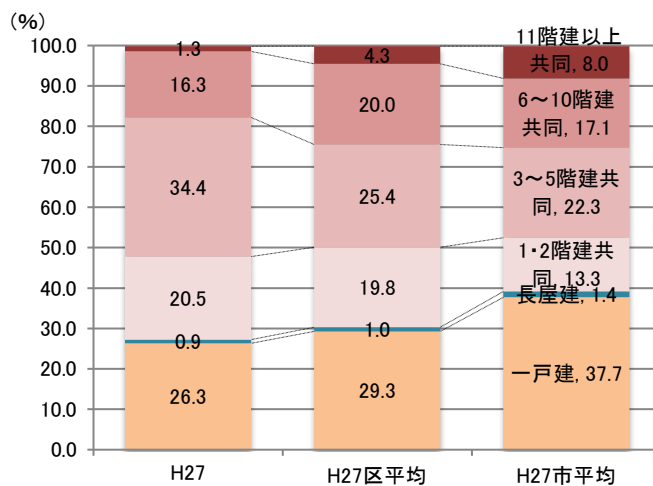


図 19 規模別世帯数

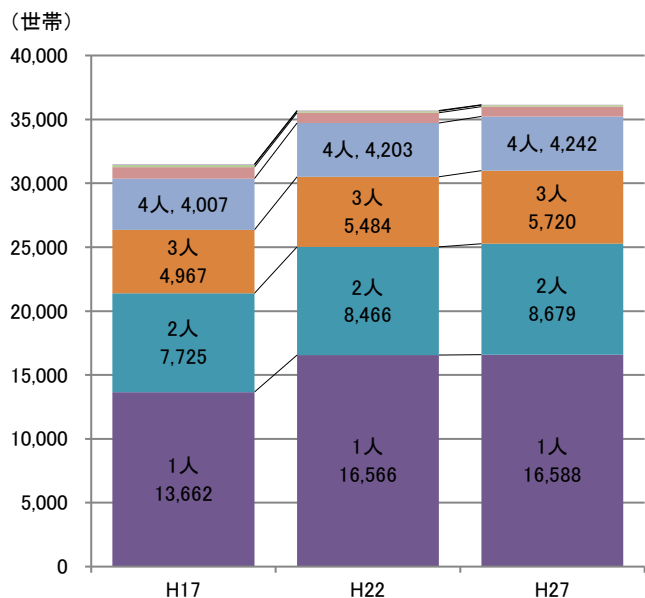
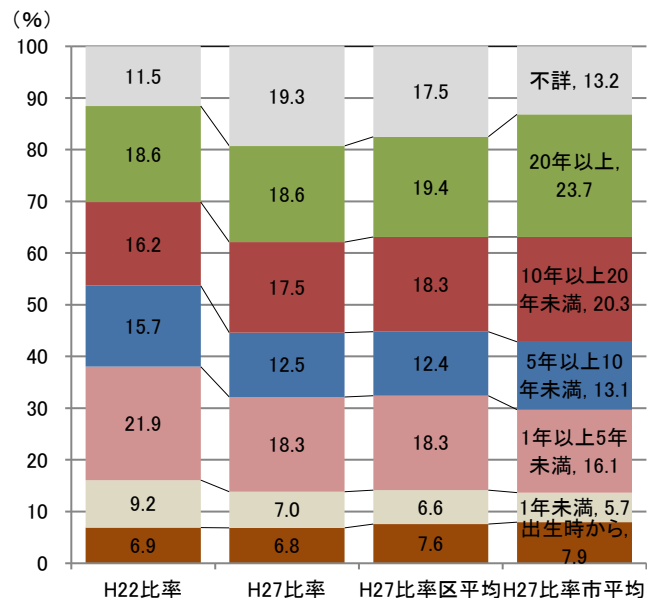


図 20 居住年数



5. 介護認定の状況等(区全体の状況)

*港北区資料による

表3 介護認定者数の動向(各年9月末)

	H27	R2	H27~ R2増減	H27~R2 増減率
港北区65歳以上人口(人)	64,337	69,652	5,315	8.3
港北区要介護認定者数(人)	11,414	13,088	1,674	14.7
65歳以上人口当たり比率(%)	17.7	18.8	1.0	
横浜市65歳以上人口(人)	860,889	925,540	64,651	7.5
横浜市要介護認定者数(人)	150,138	173,220	23,082	15.4
65歳以上人口当たり比率(%)	17.4	18.7	1.3	

図15 介護認定社数の65歳以上人口比

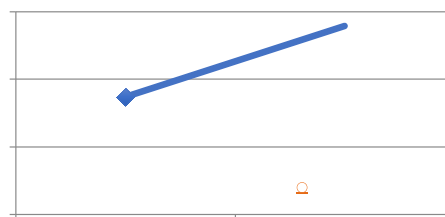


表4 介護認定の内訳(令和2年9月末)

	港北区 (人)	港北区 (%)	横浜市 (人)	横浜市 (%)
要支援1・2	3,508	26.8	49,378	28.5
要介護1・2	5,074	38.8	63,406	36.6
要介護3~5	4,506	34.4	60,436	34.9
計	13,088	100.0	173,220	100.0

図16 介護認定の内訳(令和2年9月末)

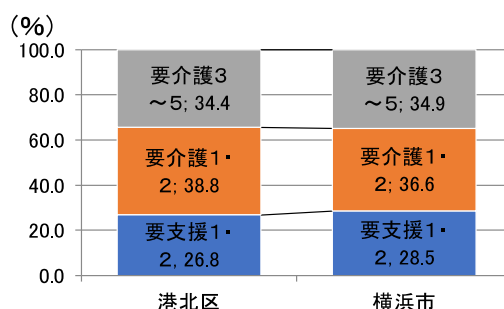


表5 認知症高齢者の日常生活自立度(令和2年9月末)

自立度	港北区		判定基準	見られる症状・行動の例
	人数 (人)	割合 %		
自立	2,478	19.6		
I	3,200	25.3	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にはほぼ自立している	
II a	1,313	10.4	家庭外で、日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても誰かが注意していれば自立できる	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ
II b	2,501	19.8	家庭内で、日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても誰かが注意していれば自立できる	服薬管理ができない、電話の応対や訪問者との対応など一人で留守番ができない
III a	1,867	14.8	日中を中心として、日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする	着替え、食事、排便、排尿が上手にできない、時間がかかる。 やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声をあげる、火の不始末
III b	432	3.4	夜間を中心として、日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする	ランクIIIaに同じ
IV	741	5.9	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする	ランクIIIaに同じ
M	94	0.7	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患がみられ、専門医療を必要とする	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態
合計	12,626	100.0		

表6 障害者手帳保持者数の動向(各年9月末)

	平成27 年	令和2年	H27~R2 増減	H27~R2増 減率(%)
身体障害者手帳所持者数(人)	7,251	7,436	185	2.6
知的障害者・児童育手帳(愛の手帳)所持者数(人)	1,818	2,308	490	27.0
精神障害者保健福祉手帳所持者数(人)	1,973	2,755	782	39.6

6. 地区の特徴と年齢別人口の見通し

*近年の年齢別人口の変化の傾向をもとに推計

図 23 年齢別人口の見通し

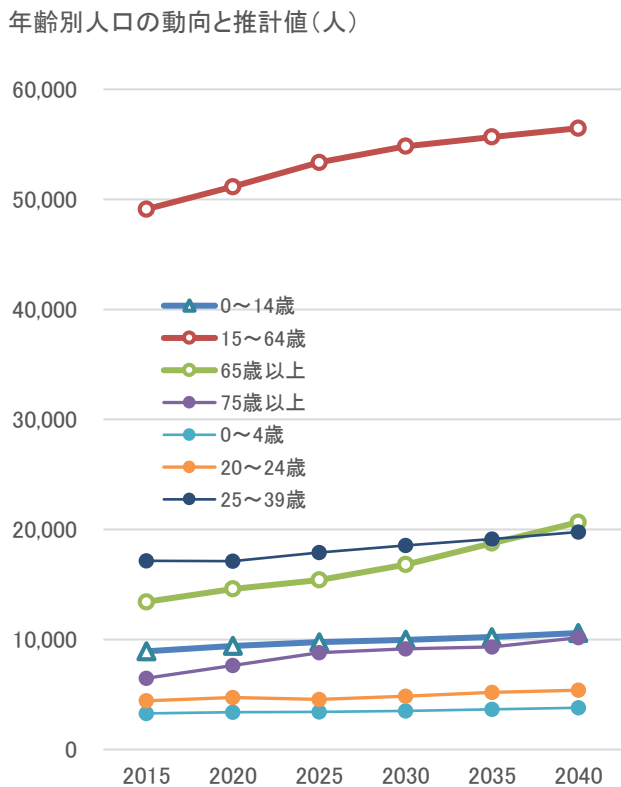
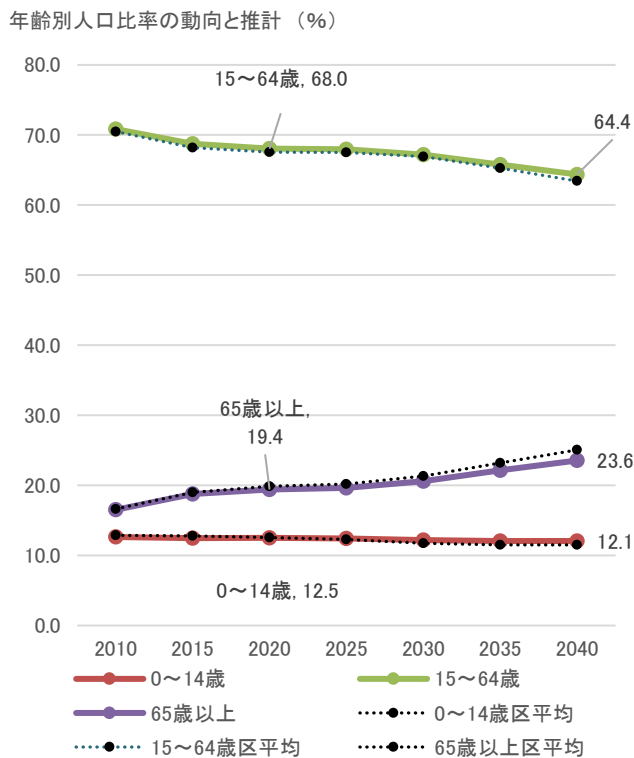


図 24 年齢別人口の見通し(比率)



●人口、世帯数等

日吉地区の人口は令和2年年9月末で約75,180人、世帯数約37,770世帯、平均世帯規模は1.99人です。(表1参照)

●特徴(区、市の平均との比較)

- ・人口、世帯数は緩やかな増加がつづいています。増加傾向は人口、世帯数ともやや強くなってきています。(表1、図2、4参照)
- ・近年、東横線東側の町で世帯数や人口の増加傾向が見られます。
- ・平均世帯規模は区の平均を下回っています。区の平均と比べると、単身世帯の比率が高く、核家族の比率が低くなっています。(表1、図10)
- ・平均世帯規模は、町によって比較的大きな差があります。(図25参照)
- ・生産年齢人口の比率が高く、市・区の平均より高くなっています。特に、25～39歳(子育て世代)の人口の比率が高くなっています。年少人口比率はほぼ区の平均値です。高齢人口の比率は市・区の平均より低くなっています。(表1、図6参照)
- ・日吉三丁目及び四丁目、箕輪一丁目は25～39歳の比率が特に高く40%を超えています。(図29)
- ・20～24歳に強い転入増加傾向があります。この傾向が続いているため、20～24歳や25～39歳の人口が維持されています。一方、35～44歳と9歳以下に弱い転出減少傾向がみられます。(図8)
- ・6歳未満の子どもがいる世帯数が緩やかに増加しています。ほとんどが夫婦と子どもの世帯です。(図11～14参照)
- ・高齢者がいる世帯の割合は市の平均より低いものの増加傾向が続いています。また、高齢の単身世帯や高齢の夫婦のみの世帯を中心に増えています。(図11、12、15、16参照)
- ・区の平均と比較して、持ち家が少なく、民間の借家に住む世帯が多くなっています。また共同住宅に住む世帯が多くなっています。公的借家があることも特徴です。(図17、18参照)

●動向

現在の年齢別の人口の変化の傾向が続くものとするれば、以下のような変化が予想されます。(図15、16参照)

- ・生産年齢人口は現在緩やかに増加しています。今後も緩やかな増加が続きます。生産年齢人口比率は、高齢者が増加するので、緩やかに低下します。
- ・年少人口は、緩やかな増加傾向が今後も続きます。年少人口比率は緩やかに低下します。
- ・高齢者の増加傾向は今後も続きます。
- ・全体として人口は増加が続きます。

7. 町丁別人口、世帯数、世帯規模の動向

*「町丁別の人口(住民基本台帳)による」各年9月末現在

図 25 町丁別人口

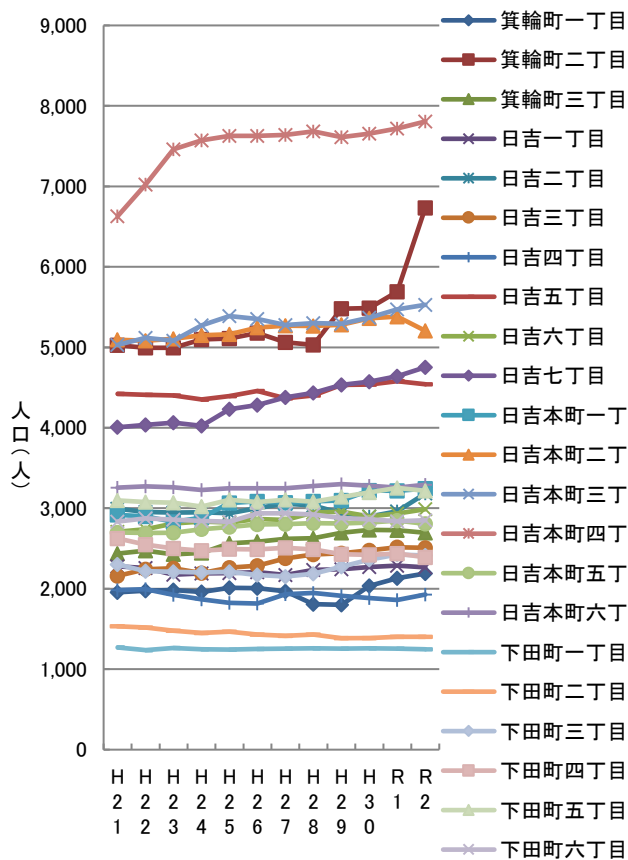


図 27 町丁別平均世帯規模

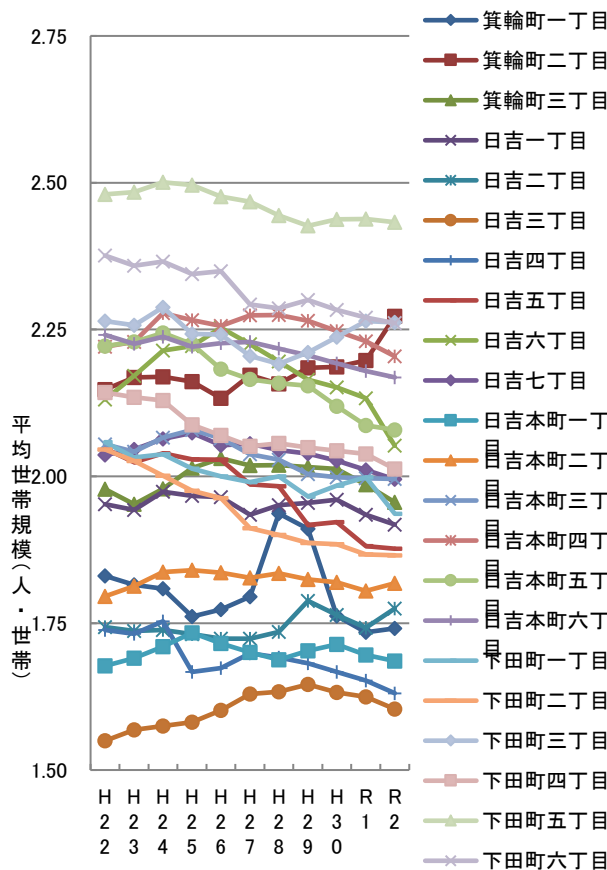
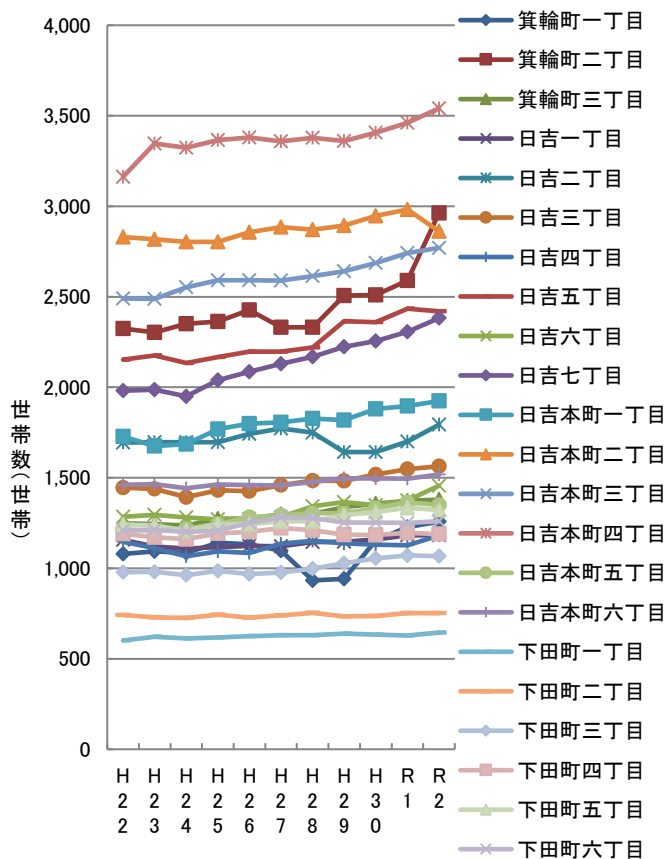


図 26 町丁別世帯数



8. 町丁目別・年齢別人口

*「町丁目別の年齢別人口(住民基本台帳)による」令和2年9月末現在

図 29 町丁目別・年齢別人口の割合 (R1)

